

MGF は、☑️神第一主義、☑️キリスト中心主義、☑️聖霊主導主義の教会

## 礼拝黙想 Meditating on Worship

「イスラエルは、ユダヤ人が自分たちの伝統的な理想に従って公共生活を形成する可能性がある地球上で唯一の場所である。」

(アルベルト・アインシュタイン)

**A** ビホールド イスラエル ニュース  
レター (2023年11月9日) から抜粋  
過去

10月7日の朝6時半、3000人以上のハマスのテロリストとガザの民間人が国境を越えてイスラエルに侵入した。彼らは殺人だけを考えていたわけではない。彼らは殺人だけでなく、拷問、レイプ、誘拐 を実行するつもりだった。彼らの4つの目的はすべて、最も邪悪で恐ろしい方法で達成された。私たちは音楽祭での無差別レイプと虐殺を忘れることはできない。子供たちが両親の目の前で拷問されて殺された話、妊婦が引き裂かれ胎児にナイフが突き刺されていた話、それぞれ10人の子供が2つに積み上げられ、火をつけられて生きたまま焼かれていた話、妻がレイプされるのを夫が強制的に見せられ、それから夫婦は頭を撃ち抜かれ殺害された話を、私たちは放置できないのだ。時間が経つと、これらの行動は単なる「1400人以上の犠牲者」という数字に変わる。この数字は悲劇的だが、臨床的なものだ。私たちは、この数字が何を表しているのかを決して忘れてはならない。それは、この世界が今までに目撃したことのないような野蛮な悪行が1400件も行われたのだ。

また、ハマスとガザの市民によって、少なくとも240人の人質がいまだに拘束されていることも忘れてはならない。その多くはあらゆる年齢の子どもたちであり、幼児までいる。多くは10代以上の女性だ。彼らは理解を超えた残虐行為を受けている。私は最近、テレグラムに、コーランでは女性の捕虜は最悪の方法で「屈辱を与える」べきだと、パレスチナの女性が説いている事を投稿した。人質がようやく解放されたとき、彼女たちは経験したトラウマの処理に一生を費やすだろう。

もう一度聞くが、もしあなたの国でこのよ

うなことが行われたとしたら、政府はどのような反応を示すだろうか？イスラエルの指導者たちは、責任者には代償を払わせ、軍は敵が二度とこのようなことをしないようにすると答えている。それが、ガザやレバノンとの北部国境で起きていることなのだ。

現在

人道的救済のためにガザに送られた数十億ドルのうち、そのほとんどはハマスの指導者たちの懐に入り、彼らが地下に建設した広大なトンネルシステムに使われている。彼らが「都市の下の都市」に作り上げたものは本当に驚くべきものだが、もしその資金を、イスラエルを根絶するという無益な人生の使命に投資するのではなく、彼らの人々や文化に投資していたら、今頃どんなに繁栄した社会になっていただろうと疑問に思う。

現在、イスラエル国防軍 (IDF) は、ガザを事実上二分する挟み撃ち戦略をとっている。市民には危険のない南部に逃げるよう警告し、彼らは今、ハマス本部の周囲に作った輪を閉じようとしている。ハマスの指導者たちは何年もカタールやトルコの高級ホテルに住んでいるので、これはハマス指導者らの周囲とは言えない。ハマス本部の主要トンネルは、ガザ市のアル・シファ病院とその周辺にある。IDF にとって最も安全なルートは、この場所にバンカーバスター爆弾を投下することだが、それは彼らのやり方ではない。ハマスの戦略は、自国の民間人を人間の盾にするという極悪非道なものだが、それは効果的である。そのため、IDF は、テロリストの戦闘員だけを標的にする地上戦を余儀なくされている。このプロセスは順調に進んでいる。

テロ組織ヒズボラの指導者であるハッサン・ナスララが先週の金曜日に演説を行うと発表したとき、ハマスの指導者たちは、ヒズボラも戦争に参加すると発言すること

を期待していた。しかしそれは落胆に終わった。イランの指導者に導かれたヒズボラは、もともとイスラエル侵攻に参加するつもりでいたが、ハマスが勝手に飛び出したのだ。その結果、ヒズボラとそのレバノンのテロリストたちが予期していなかった複雑な事態がもたらされた。レバノン沖の米空母群はナスララに大きな動揺を与え、それは演説の3分の2がアメリカに焦点を当てたことからわかる。しかし、ヒズボラは計画を諦めてはいない。再び奇襲を仕掛けるタイミングを待っているだけだ。

ハマスが最初に攻撃したとき、世界はイスラエルに味方しているように見えた。もちろん、いつものように抵抗もあったが、大多数の国が攻撃を非難し、ユダヤ国家に哀悼の意を表した。しかし、2つの要因が状況を変えつつある。まず、時間である。テロ事件の痛々しさが薄れ、常に反イスラエルであった人々が、再び感情をあらわにする勇氣を持ち始めている。国連でもこれが見られる。イスラエルに対し、ガザでの行動を一時停止して、軍事的対応の比例性について再考するよう求めている国々を見ればわかる。2つの山に積み重ねられ、生きたまま焼かれた幼い子どもたちに対して相当する対応を知りたい。その種の悪に対する比例反応は、悪をきっぱりと取り除くことである。それがイスラエルの指導者たちが国民に約束したことだ。そしてそれは、世界の多くの国々から非難を浴びることになるだろう。

イスラエルはすでに、ガザの病院を爆撃したという濡れ衣を着せられている。世界中の国々が、IDF のこの凶悪な行動を非難した。しかしその後、爆発の原因はハマス自身のロケット弾であることが判明した。そして火曜日、国連パレスチナ難民救済事業機関 (UNRWA) は、イスラエルが UNRWA の学校に避難していた罪のない市民 66 人を殺害し、540 人以上を負傷させたと非難した。しかし、彼らの告発に添付された写

真には、国連が認可した学校の地下に崩壊したハマスのトンネルをはっきりと示す陥没穴があった。国連よ、学校の下に軍事施設を設置することは、国際的に認められた戦争犯罪であることを知らなかったのか？ イラン大使を人権理事会の社会フォーラムの議長に任命した組織に、これ以上のことを期待すべきではないだろう。世界のニュースメディアからは、今後も嘘と捏造の雨が降り続くだろう。あるものはイスラエルに固執し、フェイクニュースの層が十分に厚くなったとき、世界は再びこの中傷された国に敵対するだろう。

他の国々、特に米国は、二国解決策はもはや不可能であることを認識しなければならない。ガザ内の反体制派テロ集団だけであったなら、それも一つの手だっただろう。しかし、攻撃部隊はハマスのメンバーと、たまたま近くにいた民間人で構成されていた。国境を越えて残虐行為に参加するよう誘われると、彼らは大喜びで参加した。それは、パレスチナ人が子どもたちをモンスターに育てるからだ。これらの民間人は、アッラーのためにできる最大のことの一つは、ユダヤ人を暴力的に殺すことだと幼い頃から教えられてきたために参加したのだ。その考えはパレスチナ人に深く根付いており、間違いなく次の世代に受け継がれていくだろう。10月7日に証明されたように、国境を越えてそのような考えを持つ何十万人もの人々が住んでいることは耐えられない。よって、二国解決策はありえない。そのようなことを言っている時期は過ぎってしまったのだ。

最近特に気になるのは、サタンがいかに反ユダヤ主義を教会に侵入させたかを見ることである。注目を集めた陰謀論者や聖書にない憶測が、一部の説教壇やソーシャル・メディアで蔓延している。ベンヤミン・ネタニヤフ首相が10月7日の攻撃を実行するために米国と共謀したかどうかを私に尋ねた人が何人いたかわからない。これは馬鹿げているだけでなく、恐ろしいことだ。私はこんな馬鹿げた事を説明して時間を浪費しない。9.11が内部犯行でないことや、月面を歩いた人がいることを証明するのに時間を浪費しないのと同じだ。このような反ユダヤ主義的な嘘を広める者は、自分自身を恥じ、すぐに悔い改めるべきだ。

反ユダヤ主義は、教会の助けなしでも西洋文化ですでに十分に根強い。ユダヤ人は路

上で攻撃され、殴られている。ユダヤ人の出入りを禁止する企業も出てきており、ユダヤ人が所有する家や店舗にスプレーでダビデの星が描かれ始めている。親パレスチナ派のデモ行進や集会は、何よりも反ユダヤ的だ。このような大規模な抗議行動を引き起こしている無知の多くは、西側の学術界やモスクに由来している。これは悪化の一途をたどり、最終的には各国政府が対処しなければならなくなるだろう。特にイスラム教徒の人口が多く、より過激なヨーロッパでは。

反ユダヤ主義を拡大させているもう一つの大きな要因は、マスコミである。彼らはすでに衝撃的なまでの偏向ぶりを見せている。私たちは、事件が起きたときの写真やビデオを見慣れすぎていて、カメラの背後に誰がいるのかを尋ねることを忘れてしまうことがある。10月7日の残虐行為の証拠写真の多くは、ハマスのメンバーによって撮影されたものだ。しかし、この日ハマスの潜入していた4人のフォトジャーナリストの存在が明らかになった。AP、ロイター、CNN、ニューヨーク・タイムズのために働いていた彼らは、テロリストたちが国境フェンスを突破し、イスラエルの村を襲撃し、罪のない市民を拷問して殺害し、人質や死体を運び去る様子を記録するのに適した立場にいた。これらの道徳的に破綻した、のぞき趣味の者たちが、カメラを覗き、携帯電話はポケットに入れたままだったという事実は、共犯にほかならない。彼らが撮影した写真を興奮気味に掲載した大手ニュースメディアは、その情報源の出所を十分に知りながら沈黙しているという点で、彼らも同罪である。これが、イスラエルに関する真実を求めて世界が注目するメディアなのだ。

未来

イスラエルはハマスの全面的に対処する。神の御怒り作戦によって、1972年のミュンヘン・オリンピックの大虐殺に関与した全員が永久に処分されたのと同じように、ハマスの指導部の各メンバーには、IDFかモサドのどちらかとの期日が迫っている。テロ組織としてのハマスは消滅するだろう。ヒズボラも撤退を余儀なくされるだろう。彼らが国境から撤退し、軍備を解体するという簡単な方法で実現できることを願っている。しかし、ヒズボラが強硬手段をとると主張するなら、イスラエル国防軍はイス

ラエルの安全を確保するためにあらゆる手段を講じるだろう。最終的に、イスラエルがイランに対して懲罰を加える時が来る。イランはすべての事件の首謀者であり、そのようなテロを計画し、命令し、資金を提供することは、非常に高い代償を伴うことを学ばなければならない。

米国はシリアとイラクにさらに深く引き込まれる可能性が高い。中東の基地が攻撃され続けているにもかかわらず、アメリカ国内でほとんど騒動が起きていないことに私は驚いている。米軍兵士は大きな傷を負っているのに、その対応はどうなっているのだろう。あたかも現政権がイランとの新たな合意を切望しているあまり、アヤトラたちが代理民兵にロケット弾や自爆ドローンを米軍基地に送り込むよう命令している事実を無視しようとしているかのようだ。中東では、私たちは宥和の言葉ではなく、力の言葉で物事を話す。米国はシリアとイラクにその強さを示さなければ、攻撃は激化するだけだ。

時間が経てば経つほど、ロシア、イラン、トルコの同盟は強くなる一方だ。このことは、地政学的な世界やエゼキエル 38章に書かれていることからわかる。また、中国が台湾を攻撃するまでの時間がますます短くなっている可能性も高いと思う。全体として、世界中で悪が増加することが予想される。例えば、ここ数日、スーダンのダルフール市ジュニーナ地区で、イスラム過激派のジャンジャウィード民兵が800人近くの成人前の部族民を虐殺した。BBCやニューヨーク・タイムズはどこにいるのか？犠牲者のためのデモ行進はどこにあるのか？

私たちの世界は暗い時期にあるため、このニュースレターは必然的に暗い内容になっています。しかし、神の光が輝きを失うほど暗くなることは決してあり得ないことを私たちは知っています。信者として、イスラエルのために祈ることは私たちの役割です。私たちは神が愛するものを愛さなければなりません、そして神はユダヤ人を、たとえ反抗的であっても今でも愛しています。神は、わがままな子供に対する父親の愛の究極の模範を心に抱いています。それは、情熱的で、揺るぎなく、必要なときには規律を保ち、決して絶えることがありません。



## <お知らせ Announcement>

★11月19日(日) ディアコノスの給食あり☑

★11月26日(日) ポットラックあり☑

MGFはキリスト狂徒の集まるキリスト狂会

「教会 [マラナサ・グレイス・フェローシップ (略称: MGF)] はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです」(エペソ1:23)。「あなたがた [MGF] は、キリストにあって満たされているのです。キリストはすべての支配と権威のかしらです」(コロサイ2:10)。